

みつぎ便り

116号
5月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成28年5月1日

<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>



ハルジオン

ハルジオンは日本中の道端や空き地で見られる、多年草です。何処にでも咲いているためか、貧乏花と呼んでいる地方もあるほどです。もともと園芸種として、大正時代に北アメリカから渡来したものです。

ハルジオンとヒメジョオンはとてもよく似ていて混同されがちですが、ハルジオンの蕾は、ピンク色で頸をうなだれていますが、また、茎の中が空っぽなのが特徴です。東京辺りでは、四月頃に咲いています。

これに対してヒメジョオンは、明治時代に日本に入ってきた品種で、蕾もうなだれることがなく直立して咲いています。茎の中は白っぽい繊維状のもので埋まっています。咲き出すのも一〜二ヶ月遅く、秋口まで咲いています。

今はハルジオンが多く咲いています。やがてヒメジョオンも咲き出すでしょう。みなさんも自分の目で、二種の違いを確かめてみてください。
(静)

ドウダンツツジ

バス通り側の花壇の端に十本ほどのドウダンツツジが、いっぱい緑の葉の上に釣鐘型の白い花を沢山つけて咲いています。垣根や街路樹としていたるところに植えられている馴染みの多い植木です。

花期は葉が出てから一週間後で地域によって四月から五月中旬まで花の盛りが移ります。また、新緑の時期、夏の盛り、紅葉の季節と鑑賞時期の多い植物です。

ドウダンツツジは漢字で灯台躑躅や満天星と書き、花が咲い



ている様子が昔に夜間の灯りに用いた結び灯台の脚とよく似ていることから「トウダイ」が「ドウダン」に転じたと言われています。

また、中国の故事に太上老君という神様が仙宮で靈薬を練っていたとき、誤ってある木の上に落としてしまった。そのとき玉盤の霊水がしたり落ちるとなく、枝葉に留まり満点の星に見えたことから満天星と名付けられたそうです。

とてもロマンチックな由来に改めて釣鐘型の小さい花を見て満点の星空に重ね合わせてみてください。
(安)